

齋田悟司選手、国枝慎吾選手がウィンブルドン大会出場！ ～ウィンブルドン・車いすテニスダブルス部門～

2006年6月26日
日本車いすテニス協会発信

一般テニスのウィンブルドン大会期間中に、昨年からは車いすテニスのダブルス(2対2)の試合が開催されるようになりました。この大会は、国際テニス連盟(ITF)が発行する車いすテニス世界ランキング(ダブルス)を元に、トップ8人の選手・4ペアが招待される事となっております。(ペアリングは大会側による)

現在、ダブルス世界ランキングでは、齋田選手(千葉)が1位。国枝選手(千葉)が2位。この大会はもちろん第1シードとして招待されました。

この両選手は、2004年アテネで開催されたパラリンピックにて、アジアで初の快挙となる、ダブルス競技で金メダルを獲得した事でも有名です。この時は、二人の栄誉をたたえ、日本テニス協会(JTA)より、ジャパンオープン(有明の森テニスコート)最終日のセンターコートにて表彰を受け、二人によるエキシビションマッチも行い、そのスピードと技術の正確性に観客を大いに魅了しました。

一般のテニスではグランドスラムと呼ばれる世界4大会が有名ですが、これまで、エキシビションマッチとしてウィンブルドンやフレンチオープンで車いすテニスが紹介されてきており、オーストラリアンオープンでは世界ランキングトップ8人の選手が招待される大会を2002年から開催されています。2005年大会では、女子の部で日本の八笈選手(千葉)が優勝をおさめるといった快挙も成し遂げています。

現在、シングルスでは齋田選手が世界ランキング4位。国枝選手は6/25、チェコオープンで優勝を飾り(5月からの3週連続大会優勝に続き4大会連続)、世界ランキング2位まで上げてきております。

国の違う選手がペアを組んで大会に臨む事が殆どですが、同国同士で組むペアリングではおそらく世界1位だと思います。(アテネパラリンピックから好調を維持しています)

ウィンブルドン・車いすテニスダブルストーナメントは、全英オープン大会の車いす部門として正式に開催されるもので、2006年7月8日(土)に1回戦の2対戦が行われ、7月9日(日)には、決勝戦と3位決定戦が行われます。

テニスの聖地でもあるウィンブルドンにて、齋田・国枝組は、間違いなく世界のトップ選手として活躍してくれることと思います。みなさんも、是非応援してください。

参加選手は下記の通りです。(ランキングは、世界ダブルスランキング)

- 1：齋田悟司(日本。1位)・国枝慎吾(日本。2位) パラリンピック優勝ペア
- 2：Michael Jeremiasz (FRA。3位)・Jayant Mistry (GBR。8位) 昨年大会優勝ペア
- 3：Robin Ammerlaan (NED。4位)・Martin Legner (AUT。5位) 2年連続出場
- 4：Miroslav Brychta (CZE。9位)・Tadeusz Kruszelnicki (POL。7位) 2年連続出場

ITFの記事 <http://www.itftennis.com/wheelchair/news/newsarticle.asp?id=16619>

日本車いすテニス協会理事 久下 邦裕

選手プロフィール

齋田悟司

1972年5月26日 三重県生まれ 34才 千葉県柏市在住 OX エンジニアリング職員
車いすテニスは14才より、三重県四日市市にて始める。

- 1996年 アトランタパラリンピック 日本代表選手として初出場を果たす。
- 2000年 シドニーパラリンピックにて日本人初のベスト8入賞を果たす。
- 2002年 ダブルスランキング1位となる。
- 2003年 ジャパンオープン(飯塚市)にて、当時世界ランキングNO1の無敵を誇るデビッド・ホール(AUS)を破り、大会日本人初タイトルを飾る。
- 2003年 ワールドチームカップ(世界国別対抗戦)・ポーランド大会にて、キャプテンを務め、アジア初、日本初の快挙となる男子優勝の原動力となる。
この年、世界各国の選手・コーチが投票する最も権威のある賞である、世界プレイヤーズ賞を受賞。名実ともに、世界に名だたる選手となる。
- 2004年 アテネパラリンピックでは、国枝選手と共に男子ダブルス初優勝を飾る(アジア初)
- 2006年 オーストラリアンオープン期間中に開催される、クラシック8(トップ8が招待)にて準優勝を飾る。
ジャパンオープン、ソウルオープン、テグオープンと、3週連続して準優勝。

国枝慎吾

1984年2月21日 東京都生まれ 22才 千葉県柏市在住
車いすテニスは、11才より、(財)吉田記念テニス研修センターにて始め、現在もここでトレーニング行っている。現在は、麗澤大学職員。

- 2003年 ワールドチームカップ・ポーランド大会にて、男子優勝(アジア初)に大きく貢献。
- 2004年 アテネパラリンピック 車いすテニス競技 齋田選手と組み、男子ダブルス金メダル(アジア初)
- 2005年 NEC マスターズ(トップ8招待)にて、4位の実績をあげ世界に台頭する。
- 2006年 ジャパンオープン(飯塚市)、ソウルオープン、テグオープンの3週連続優勝の快挙を成し遂げる。
6/25 チェコオープンにて、4大会連続優勝を成し遂げ、6/26 付けランキングでは本人にとって最高位の、シングルス2位、ダブルス2位となる